



# 学校だより 2月

令和3年1月29日 横浜市立芹が谷南小学校

## 今、コミュニケーションを

学校長 高木 篤子



「全校の皆さん、おはようございます。」

毎週月曜日の朝会、放送室でカメラに向かって話します。今は全校が一堂に集まることを避けているため、体育館に児童の挨拶の音が響かずやや寂しく思います。やはり、1～6年生の顔を見て、反応を確かめながら話をしたいと感じています。

放送朝会のメリットもあります。密を避けるだけでなく教室から体育館までの全校児童の移動時間を省くことができる、写真やプレゼン資料を提示することができる、表情をアップでとらえることができるなど。一方通行な発信になりがちですが、メリットを生かし、できるだけ分かりやすく伝えたいと思っています。

近頃、市内や区内の各学校の担当が集まる会議や研修・研究会も、リモートで行われることが増えました。不慣れなところがあり、操作に手間取ることもありますが、会場で密集することも、出張で交通機関を利用することもなく、学校にいながら会議等ができます。参加者の顔を見て、発言することも有効です。

一方、操作上の問題以外で、話すときに難しさを感じることもあります。どこで発言したらよいかタイミングをうかがう、相手とのやりとりの中で間をとりにくい、目が合うようで合わせにくいと感じるのは私だけでしょうか。

感情や気持ちを伝えるコミュニケーションをとる際に、視覚・聴覚・言語の情報に矛盾があった場合、どのような情報に基づいて印象が決まるのかを検証した「メラビアンの法則」によると、次のような割合で伝達するとされています。

- ・視覚情報（見た目、表情、視線、態度、姿勢など） 55%
- ・聴覚情報（声のトーンや大きさ、話す速さ、口調、抑揚など） 38%
- ・言語情報（言葉そのものの意味、会話の内容など） 7%

これによると、コミュニケーションの中で視聴覚の非言語による情報が93%を占めているとのこと。三つの情報を統一するようにしながら、言葉を大事にするとともに、視覚・聴覚の情報や印象を生かすことが求められます。

実際に顔を会わせて話をすることで、分かりあえることも多々あるでしょう。状況によって伝える方法は様々であっても、コミュニケーションの大切さは変わりません。今だからこそ、心通うコミュニケーションが望まれているはず。です。